

# 課題解決型インターンシップ

## 4チーム 奮闘の軌跡

キャリアデザインセンターが主催する「課題解決型インターンシップ2014」で、学生たちは地域の企業や自治体、商店街などが抱える課題の解決に取り組んだ。16プロジェクトに179人が参加。試行錯誤を繰り返しながらチームワークを発揮し、どんな解決策を提案したのか。4チームの軌跡を紹介する。

たま区発! 謎時!!

### クイズラリーを展開

多摩区内を巡って謎を合庁舎や登戸駅周辺が舞解き、魔王を倒す―竹川征樹さん(文2)をリーダーとする26人は「たま区発! 謎時!!」と題行われた第2弾「魔王とキミ」と不可思議の種」(9月21日)で行われた第1弾「魔王とキミ」は多摩区総り、急きょ増刷するほど



▲ たまくん(右)、魔王(左)にふんする学生



▲ 多くの親子らが参加した第1弾の様子

「のは面白い」「子供と一緒に楽しめた」などの感想が寄せられた。チームが取り組んだ課題は「地域資源を活かしたリアル謎解きゲーム(多摩区役所)。ゲーム企画と、地域情報誌「多摩すた」の制作を行った。活動の第一歩は街歩き。多摩区内をくまなく歩き、どんなゲームができるかを検討した。竹川さんは「謎やゲームを作るまでが一番大変でした」と話す。街歩きと話を。街歩き

「たまくん」「魔王」などの魅力的なキャラクターもメンバーの作品。竹川さんは「イラストの得意な人、謎やゲームを考えるのが得意な人、それぞれが持ち味を生かしました」と振り返った。

商店街を楽しくにぎやかに

### 四季折々のイベント

長沢商店会(川崎市多摩区)の交流スペース長沢ひろばを足場に、四季折々のイベントを企画・運営し、成功させるのがテーマ。経済学部・徳田ゼミで07年から続く「長沢活動」は今年度、徳田賢二教授が中期在外研究で不在のため、犬塚裕雅非常勤講師の指導の



▲ 昨年2月に行われた餅つき



▲ 完成したイルミネーション

ハロウィーンでは、事前に参加する子どもを募集し「仮装ラリー」を実施。店舗を回ると仮装が完成する趣向に変え、人気を博した。

恒例のクリスマス・イルミネーションは、学生が土台となる6基のツリーを発泡スチロールやペットボトルで作り、地域の小中高6校の児童・生徒に飾り物作りを依頼。小学生には学生が生田緑地で拾ったどんぐりと松ぼっくりを、中学生にはステンドグラスのように光る素材を届け、カラフルなイルミネーションを完成させた。今回は12月6日の点灯式から25日まで、夜間もライトアップされた。見事な出来栄のツリー

の前で写真を撮る人も多く、商店街のにぎわいづくりにひと役買った。「学校の協力が得られるのも、先輩たちが築いた信頼関係のおかげ。『失敗を恐れず、どんどんやりたいことに挑戦して』と後押ししてくれる商店会の皆さんのためにも、もっと工夫して売り上げを伸ばし地域に還元したい」と岡野希春さん(2年次)は話す。

### 東京七宝、東京染小紋、江戸刺繍 伝統工芸の魅力に触れて



▲ 東京染小紋の工房では「型付け」の工程も体験した



ファッショと。5学部から集まった133名は3班に分かれ、伝統工芸にはどんなものがあるのか調べてから始めた。チーム内で各自のアイデアを議論し、全体討論を経て絞り込まれたのは、東京七宝、東京染小紋、江戸刺繍の3つ。実際にその伝統技術を使って魅力ある商品になるのか、それぞれの伝統工芸の工房を訪ね、作業の一部を体験しながらイメージを膨らませた。

「江戸刺繍入りスポーツウェアを企画したが、洗濯はできないと言われ諦めた」(佐々木貴寛さん・商3)、「高価な東京染小紋も少量ずつ使えば価格を抑えられる。手染めの和柄アクセサリーは希少で人気が出るのでは」(松井春菜さん・文2)。

100以上の商品案を学生にアンケートして残ったのはネクタイピン(東京七宝)、ピアス(東京染小紋)、プレスレット(江戸刺繍)。12月の最終発表会ではネクタイピンとピアスの見本が披露され、2500円前後での販売が提案された。発想法やマーケティング部を体験しながらイメージを膨らませた。E代表取締役の角田知弘さんは「よくここまで成長したと思う。期待以上の出来です」と評価。見本の完成度を高め受注生産できる態勢を整えた上で、1月24日の同社イベントに展示することが決まった。

学生は、特別講師としてスポーツ・マネジメント会社の女性創業者や、グッチとコラボレーションを果たした甲州印伝の「印傳屋」専務から話を聞く機会も得た。古海美世子さん(経営3)は「伝統工芸の世界にふれ、商品開発の流れを体験できたことは大きな財産。行動に移すことの大切さを学びました」と充実した顔を見せた。

### 販促グッズ作りに工夫



▲ 本で行われたピリオオバトル

持ち歩きたくなるブックカバー―

1)をリーダーとする12人は、北野書店(本社・川崎市)からの課題「持ち歩きたくなるブックカバー」に取り組んだ。「地域密着をコンセプトに多くのアイデアを考案しました」と佃井さん。

佃井亮太さんは「地域密着をコンセプトに多くのアイデアを考案しました」と佃井さん。

課題のブックカバーにはフリーペーパーの作成やマスコミキャラクターの公募を行い、10月には「read&play本で遊ぼう」をテーマに「専修大学生フェア」を同書店本店(川崎市幸区)で2週間にわたって開催した。

フェアでは、メンバーをおすすめの本や文具を紹介する特設コーナーを設け、おススメ本の購入者

ブックカバーを手にする佃井さん

佃井さんは「お客さんにアンケート調査を行うなど、担当した社員と一緒に店を盛り上げてくれた」と学生たちの頑張りをたたえた。

同書店代表取締役の北野嘉信さんは「学生たちの若い発想を聞き、気づかされた部分もある」と話し、「お客さんにアンケート調査を行うなど、担当した社員と一緒に店を盛り上げてくれた」と学生たちの頑張りをたたえた。